

【別添4】事業概要のまとめ（日本語版）ラオスにおける胃癌撲滅のための消化器専門医の育成

作成日：令和7年4月10日

1. 現状：ラオスでは5番目に多い胃癌の治癒率が低い。その原因は早期胃癌の発見の遅れ（内視鏡診断技術の不備）と予防（ピロリ菌除去）対策の遅れによると考えられる。
2. 事業の最終目的：消化器専門医（内視鏡、病理）を育てラオスの胃癌死を減少させる。
3. 事業の概要：本法人理事で胃癌内視鏡の権威である福岡大学筑紫病院の八尾教授を中心に、ビエンチャン主要病院（癌センター、ミタパプ、セタイラート、マホソト）の内視鏡医に上部消化管内視鏡技術研修を行う。また胃癌予防に重要なピロリ菌の解析を大分大学山岡教授が、胃癌の病理は、順天堂大学病理学講座の八尾隆史教授がラオス病理医に伝授する。
4. 期待される成果；ラオス人医師が内視鏡技術を研修し、早期胃癌が発見され、ピロリ菌に対する解析手法も得て予防が可能となり、ラオスにおける胃癌死を減少に導く。

